
月光

麗穩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月光

【コード】

N9901U

【作者名】

麗穩

【あらすじ】

前に一度死んだ覚えがある少年。彼の身には何かが起こったはずだった。真実を追ってほどけゆく謎。彼の身に一体何が

始まり（前書き）

これともう一つまでがプロローグのような役割になっています。
さらっと読んでみてくださいませ。

始まり

夜に白く輝きし月よ

なぜそこにいるのか

なぜまた会えたのか

少年は目が覚めたとき、気づけばそこにいた。
小さな、山小屋のようないでたちの温もりのある部屋の中。
といっても、それはもう何年も前の話になるのだが。

「もうすぐだ。急ぐぞ。」

目の前にいる一人の男、少年を保護した人だ。
仕事は何をしているか、分からない。

今は山を登ってこの数日間しか実らないという実を採りに
歩いているところだ。

山はあまり人が通らないらしく、道もはっきりしていない。

さらに少し進むと、木々が閑散としてきて満月が見えてきた。

少年は、月を見るたびに思うことがある。

自分は前に一度月を見ながら死んだのだ、と。

始まり（後書き）

読んで下さり、ありがとうございます。
よろしければ評価、コメントもお願いします。

轟音

鬱蒼と木の茂る獣すら通らぬような道を進み、ようやく目的の場所へ着いた。

濃い緑を月に晒されている木々の中に目当ての木はあった。

「あれがアクレスの木だ。足元に気を付けて採ってきてみる。」

男が少年に囁くと、小さく頷いてさらに木に近づいていく。

アクレスの実はとても貴重だ。ただの風邪から難病までの薬の大切な材料になる上、

実のなる期間が1年のうち、わずかに数日しかない。おまけに育てるのも難しいのだ。

そんなアクレスの実を干して挽き、街で売れば結構な収入になった。

少年は実を採れる範囲に近づくと、腰から白い袋を取り出した。

次々と丁寧に実を収穫し、袋に入れていく。

すべて取り終え、そのことを男に伝えた。

男は頷き、口を開こうとした。

その時、激しい轟音。

その音は何の音なのか理解した男は少年に「西へ逃げろ」と短く告げた。

何の事だかわからない少年は首を傾げ、動かない。

「さっさと西に逃げてろ！急いで！！」

少年は今まで聞いたことのない男の怒鳴り声に驚いたが、今度はすぐに動いた。

深い森の中を一人で走っている間も、少年は何が起きたのかまだわかっていない。

後ろを振り返ったとき、さっきよりも激しい音があたりにこだま

する。

少年は男が心配になったが、かけられた怒鳴り声を思い出し、必死に走った。

少年は西に何かあるかも分からない。

それでも、走る。走る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9901u/>

月光

2011年10月21日22時01分発行